

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

日刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

2000. 2. 2. No. 5082

東労組・革マルの謀略論

何のためにこんなことが?

盗聴! 末期の姿

昨年11月、革マルともくされるNTT社員2名が逮捕された。携帯電話のデータを盗みだし、盗聴に係わっていたという容疑だ。ところがこの2名は元国鉄職員で、旧動労の役員・活動家であった。盗聴や尾行やデマ、脅しなどの陰湿な手段で意に沿わぬ者に徹底した攻撃を行うのは革マルの常套手段だが、東労組を牛耳る旧動労・革マルが盗聴に深く関わっていたことが明らかとなったのだ。

この事件といい、東労組のなかでくり広げられている「組織内の組織破壊分子摘発運動」といい、もはや到底労働組合とはいえないものだ。彼らは会社と手を結び、合理化や不当労働行為の手先となることで生かされてきたが、もはや末期症状だ。

またも 謀略論!

JR東労組がまた「謀略論」を騒ぎはじめています。新幹線のゴミ袋爆発事件、浦和駅のロッカーに爆発物が仕掛けられた事件、JRと京成での時限発火装置事件などが、国家権力の謀略だというのだ。

ところがJR東労組が騒ぎはじめたのとたん、今度は革マル派が社宅へのピラ入れを行い、1月23日には千葉運転区と幕張電車区にピラまきにあられた。その内容は、先の爆発物等の事件のみならず、「ATOSのダウンや、全国で起きているトンネル壁のコンクリート崩落事故まで、権力内謀略グループの魔手による仕業だ」「ゴミ

踏込 恫喝として

JR東労組と革マルが叫びたてる謀略論は、一体どのような意図をもっているのだろうか。

彼らの謀略論は、東労組の組合員といえど、実際のところ誰ひとり信じてはいない代物だ。誰でも心のなかでは「何言ってるんだ」と舌をだしている。

だがそれは、当局との結託体制を背後の力としていっているがゆえに、踏絵としての役割、組合員の声を封じ込める手段、どう喝としての役割を果たしている。

ひと言でも疑問や異論をさしはさめば、たちまち「組織破壊分子」のレッテルが貼られ、誰も思ったことを率直に口にすることができない雰囲気がつくられる。しかも宗教と同じで、ひたすら信じるか、信じないかだけの世界だ。だから討論などなりたちようもなく、返ってくるのは「お前には階級的警戒心がない!」「お前の思想が問題だ!」という恫喝だけになる。

組合員は「もの言えばくちびる寒し」と考え、革マル系の役員のいないところだけで生き生きと話しをするような状態となるのだ。

逆に革マルは、「ウソも百べん

繰り返せば本当のように聞こえる」方式に謀略論をどんどんエスカレートさせるようになる。ほとんど洗脳の世界である。

次々と レッテル

だが、謀略論の意味はそればかりではない。何ひとつ根拠のない詭弁であるがゆえに、いしくらでも拡張され、反革マルともくされた者すべてが、「どす黒い意図をもった何ものか」や「権力内謀略グループ」にプロモートされた国家権力の手先、謀略の手先というレッテルが貼られるようになる。

そして、「ブラブラ連合解体」とか「国労解体」が最大の課題とされて、組合員は、「平和共存打破」などという運動にひたすらかりたてられることになるのだ。しかもその矛先は自らの組合員にも向けられ、国労やJR連合の組合員などつき合いのある者は「組織破壊分子」にされるのである。つまり、謀略論は、反革マル勢力を叩き潰すためにデッチあげられた論理なのだ。

「蜜月」防衛運動

JRに対して、東海や西日本など革マルに同調しない経営者は、「悪の経営者」「一部権力者と結託し、……」とされる一方で、「東日本の経営幹部は立派だ。世界に冠たる資質をもっている」「企業文化の極めて高いレベルを実現している」(松崎発言)などと、異常なまでの称賛が行われる。こんなおかしい話があるはずはない。どの企業だろうと資本は資本だ。いかに労働者からしぼり取って、

利潤をあげるのか以外を基準として動く企業などありはしない。だから東日本も、JRになつてからだけでも四五〇〇人も要員削減、リストラを強行し、重大事故の多発を招いているのだ。

そして東労組は、自らの支配を守るという目的のために全てにおいて奴隷のように行動してきた。このような組合になぜ国家権力が謀略を仕掛けなければならぬというのか。この一点だけを見てもその主張のウソは明らかだ。

だが東労組は、「東日本II世界に冠たる資質」(東海・西日本)「悪の経営者」という得手勝手な構図を描き、革マルと資本の蜜月を何とか守るために、組合員を企業防衛運動にかりたてているのだ。

恐怖心をもって!

JR総連は、「まさしく戦時下のそのものであり、労働組合など存在得ない暗黒の時代」「我々は背筋が凍る恐怖心をもたなければならぬ」「闇いによってこの現実社会が何とかなるかのよう甘い感覚を持つことは拒否しなければならぬ」(関東青年部での鳴田書記長発言)などと叫んでいる。

謀略論のメダルの裏はこのようだ。「冬の時代論」だ。労働者を絶望で組織し、それを理由として徹底した組織統制を行い、運動はJR東日本の結託体制を守ることでだけ重要とされ、逆に「妨害勢力」を潰すためには盗聴だろうと何だろいう平気で言うのだ。JR東労組の運動とは徹頭徹尾デマと憎悪で組織された運動だ。もはやこんなものは労働運動ではない。

労働千葉を創りあげた新しい世代の労働者たちよ!